

むつ総合病院メンタルヘルス科

広い病室 待望の新棟完成

来月5日から使用開始

むつ市のむつ総合病院(小川克弘院長)メンタルヘルス科の新病棟が完成し28日、関係者や一般市民に公開された。稼働病床数はこれまでと同じ約50床だが、入院患者1人当たりの病室スペースをこれまでのほぼ倍の広さにするなど環境を改善。来月5日から使用開始する。



メンタルヘルス新病棟2階にある入院患者用の病室(写真は4人部屋)。室内は明るく、窓からの眺望も良い

新病棟は鉄筋コンクリート造り2階建て、延べ床面積約4415平方メートル。既存の同科病棟の老朽化に伴い昨年8月に着工、既存病棟の北側に今年18日に完成した。総事業費は約14億円。

1階部分は外来の診療室などを備え、2階に入院患者の病室26室(個室、2人部屋、4人部屋)と観察室などが入る。病床は保護室を除き50床。弘前大学から非常勤医師4人の応援を受け、常勤医2人体制で診療に当たる。同病院によると、既

存の病棟は1963(昭和38)年に建築され老朽化が激しく、手狭だったことから、建て替えは長年の待望だった。現在、同科の入院患者は50人、外来患者は1日当たり約100人と、同病院で20以上ある診療科の中でも患者数が多い。うつ傾向や

不眠を訴える患者の診察需要が増えているという。民間病院を含め、むつ下北地域で唯一の心療科ということもあり、予約制の新規外来受診は現在1カ月待ちとなっている。既存病棟は来年度取り壊し、駐車場などに整備する。